

令和3年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	
施 設 名	札幌市こどもの劇場（やまびこ座）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	22,051	(千円)
	公 演 事 業	12,696 (千円)
	人 材 養 成 事 業	7,084 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,271 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	やまびこ座・こぐま座 野外人形劇シリーズ	2021年7月31日他	演目:「サイトスペシフィック・パフォーマンス」他 出演・スタッフ:滝沢修、沢則行他	目標値	2,680
		やまびこ座・こぐま座		実績値	328※
2	こぐま座45周年記念『札幌国際人形劇フェスティバル』	2021年10月16日他	演目:「いぶし銀たちの競演」他 出演・スタッフ:池原八十八、橋本一生、他	目標値	2,360
		やまびこ座・こぐま座 市内児童会館		実績値	1,672※
3	伝統芸能『座・競演シリーズ』 「座・競演～につぼんの伝統芸能～」	2021年10月3日他	演目:「座・競演～につぼんの伝統芸能～」 出演・スタッフ:林本大 他	目標値	300
		やまびこ座		実績値	194

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東区市民劇団「オニオン座」育成事業	2021年6月1日～	演目：「まんじゅうこわい」他 出演・スタッフ：西脇秀之 他	目標値	入場者：1,050人 参加者数：65人
		やまびこ座		実績値	入場者：134人 参加者数：11人※
2	人形浄瑠璃育成事業 (中高生のための人形浄瑠璃講習会、人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会)	2021年2月27日他	演目：「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」他 出演・スタッフ：西脇秀之 他	目標値	入場者250人(発表会)・ 参加者数45人
		やまびこ座		実績値	入場者88人(発表会)・ 参加者数37人※
3	キッズプログラム「児童劇団」育成事業(遊劇舎、劇 youth)	2022年1月16日他	演目：新・遊劇舎版『人間になりたがった猫』他 出演・スタッフ：佐藤颯 他	目標値	入場者数：300人 参加者数：40人
		やまびこ座他		実績値	入場者数：122人 参加者数：27人※
4	人形劇裾野拡大事業 (人形劇ゼミナール、児童会館人形劇クラブ、札幌人形劇祭)	2022年1月8日他	演目：第50回札幌人形劇祭他 出演・スタッフ：人形劇団えりっこ竹田洋一 他	目標値	600名
		やまびこ座他		実績値	入場者数：596人 参加者数：259人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人形劇巡回公演事業	2021年11月6日他	演目：「したきり雀」他 出演・スタッフ：人形劇団オペレ 北村郷子 他	目標値	2,000人
		市内児童会館		実績値	2,569人
2	近隣小学校を対象とした アウトリーチ活動	2021年10月12日他	演目：人形劇ワークショップ他 出演・スタッフ：大雪座 他	目標値	参加者数 900人
		元町北小学校他		実績値	679人
3	伝統芸能こども体験型ワ ークショップ	2021年10月2日	演目：こども体験型ワークショップ 出演・スタッフ：桂紋四郎 他	目標値	参加者数 30人
		やまびこ座		実績値	26人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>子どものための専門劇場として、子どもと地域のための「子ども文化」を守り、はぐくみ、次世代に向かって新たな挑戦を続ける「地域の文化拠点」としての使命を果たすべく、多岐にわたる公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を組み立てることができた。その特徴として、公演事業での観客や普及啓発事業での参加者が、人材養成事業に参加し、経験を積み公演の新たな担い手となるなど各事業が連動し、そのサイクルを回しながら持続可能な地域の文化創出につながっていることである。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、野外人形劇シリーズ（公演事業1）のうち、こぐま座45周年記念事業として準備を進めていた「サイトスペシフィック・パフォーマンス」や、国際人形劇フェスティバル（公演事業2）のうち、海外劇団招へい公演など、多くの事業が延期や縮小となったことは残念であった。しかし、創造活動を止めない工夫や準備を進める過程において新たなアイデアや芸術性を取り入れるなど、創造的な作品を生むためのつながりや結束力を高める時間となったことの成果は大きく、次年度への可能性につながるものになった。</p> <p>半世紀の節目となった人形劇裾野拡大事業（人材養成事業4）のうち、第50回札幌人形劇祭では、24劇団もの参加があり、このコロナ禍の中で各劇団が工夫をして作品創造に取り組んだことの意味は大きいと感じる。特に子ども部門の飛躍は大きく、これまで劇場や児童会館等に向けて取り組んできた子どもたちに向けた文化体験活動による人材育成の手ごたえを感じることができた。</p> <p>いずれにおいても、子どもが文化芸術にふれる機会を継続的に確保し、実演芸術を守り育てていくことで、地域の文化拠点として特徴的な事業展開を図ることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>やまびこ座・こぐま座は、開館以来、単に鑑賞の場だけではなく、文化体験や市民劇団の創造拠点として運営している。人材養成を中心とした施設運営が功を奏し、継続的な市民劇団の育成、地域の子どもの文化の醸成、子どもの劇団等の表現活動グループの輩出につながっている。</p> <p>各事業を企画立案する上での特徴的かつ普遍的な考え方として、市民を巻き込んだ形での事業展開に重きを置いている。今回の助成事業に関しても、その意義は顕著に表れており、地元の子どもたちやアマチュア市民劇団が専門アーティストと協働した取り組みは大きな成果となっている。</p> <p>人形劇や児童劇をとおして市民が参画できる場を創り出し、地域に還元できる仕組みは、文化的にも社会的にも大いに意味のあることである。劇場職員が市民に寄り添い導くことで、小学生から一般まで段階を設定して途切れることのない支援を行い、その上で個々人が成長し、将来においての札幌の文化が発展していく継続的なサイクルを形成している。</p> <p>劇場による市民劇団と観客双方が高め合い共に成長できる仕組みによって、質的向上と機会の充実に寄与している。それらの効果から地域全体の文化芸術の裾野を上げ、札幌が輝く街となり、様々な市民が集い、専門アーティストや関係機関とつながることで経済波及効果など経済的意義も生まれてくる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業

今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、計画していた公演事業の中止や延期、事業内容の見直しを余儀なくされ、期中における変更と感染状況の把握を行いながらの実施となった。特に野外人形劇シリーズについては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出時期と重なり、予定していた公演の多くが中止とった。しかし、文化の灯を絶やしてはいけないという信念のもと、トレーラー動画の製作及び配信に切り替えるなどの工夫を行い、コロナの終息後の事業再開への期待を持たせた。

- ① 野外人形劇シリーズの観客動員数 2,600 人以上を目標としていたが、26 回のうち 21 回の公演の中止が余儀なくされ目標に届いていない。特にサイトスペシフィックパフォーマンス、冬の野外人形劇の中止は大きく影響を及ぼした。(達成率：7.9%)
- ② 1 公演あたりの観客数 90 人以上を目標としていたが、コロナ感染状況や客席制限により目標に届いていない。(達成率：56.6%)
- ③ 各公演の収益率は 30%以上を目標としていたが、全 3 事業のうち 2 事業は目標に届いていないものの、1 事業を除いては概ね達成できている。全体的に収益率が低いため、収支バランスの再検討が今後の課題である。(達成率：76.3% ※3 事業平均)
- ④ 観客アンケートの満足度は 90%以上を目標としていたが、99%の満足度をいただくことができた。特に「札幌国際人形劇フェスティバル」、「座・競演」については、高い評価と共に、札幌でこのような公演を観られたということへの喜びや評価を多くいただいた。(達成率：110%)

●人材養成事業

今年度も、地域に根付いた劇場として、「人形劇」・「児童劇」・「伝統芸能」のさまざまなジャンルの人材養成事業を行うことができ、各世代において、創造的な活動ができる文化拠点を作り上げることができた。事業終了後も、参加者同士で集まり公演に向けて作品作りを行う場面も見られ、当該事業の効果を感じることができた。オニオン座育成事業のうちプロデュース公演はコロナウイルスまん延に伴い止む無く中止となってしまった。今後とも、感染症対策を行いながら、地域における切れ目のない支援を実施していきたい。

- ① 指導できる人材の輩出 目標 1 名以上→実績 2 事業計 3 名 (達成率：150% ※2 事業合計)
- ② 次のステップ事業への継続参加 目標 3 名以上→実績 3 事業計 9 名 (達成率：99% ※3 事業合計)
- ③ 地域広報媒体への掲載 目標各事業 1 回以上→実績 1 回以上 (達成率 100%)
- ④ 自主公演 目標 (施設内) 1 回以上→1 回 (達成率 100%)、目標 (施設外) 2 回以上→未実施 (達成率 0%)
- ⑤ 子どもの伝統芸能事業参加 目標前年比 15%増→実績 44%増 (達成率 293%)
- ⑥ 異年齢交流促進 (アンケート設問満足度) 目標 80%以上→未実施
- ⑦ 札幌人形劇祭参加劇団数 目標 20 劇団→実績 24 劇団 (達成率 120%)

●普及啓発事業

やまびこ座が拠点となり事業を展開することで、地域における文化事業のモデルケースとなっている。地域の学校や関係機関からのあらゆる要望を受け入れるための、やまびこ座が持つこれまでの専門家とのつながりや子どもたちへの指導スキルは、非常に重要な強みである。今後、この強みをさらに生かし、人形劇等を通じた文化の街づくりを目指していく。

- ① 出張公演回数 目標 40%増→実績 36%増 (達成率：90%)
- ② ワークショップの参加者数 目標 40%増→11%増 (達成率：27%)
- ③ 障がい児の体験機会 目標 12 回→実績 19 回 (達成率：158%)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●公演事業

各事業において、新型コロナウイルスの市内の感染状況を常に注視しながら、実施日を検討したため、当初計画からの変更や規模縮小、中止などを余儀なくされたが、概ね適切であった。

●人材養成事業

当初計画では人材養成事業の大部分は春先からの開講を予定していたが、大半は新型コロナウイルスの影響による施設休館や時短営業措置により延期となった。一部事業はオンラインの活用によるリモート実施等で活動を止めない工夫をした。休館明けの下半期に開講がずれ込み、タイトなスケジュールではあったが、プロデュース公演事業を除いて発表公演を迎えることができたことは、大きな成果であると考えている。

●普及啓発事業

コロナ禍により子どもたちの体験機会の減少を懸念する学校現場や関係機関と劇場が連携をすることで、子どもたちに豊かな体験機会を提供することができた。劇場で「待つ」のではなく、さまざまな理由で劇場に足を運ぶことができない子どもたちに対しても「届ける」ことができたのは大きな成果である。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費については、新型コロナウイルスの影響により、計画とは乖離する結果となった。

収入は、事業の中止や劇場の客席制限、感染状況の影響を受けた入場者減に伴う減収となった。支出についても同様に内容変更等も含めて影響を受けた。そのため、収支バランスの面においても苦慮しており、今後は共催者負担金等のファンディングの強化等、予期できない危機下においても収入を確保できる仕組みを検討して参ります。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

やまびこ座・こぐま座ともに、子ども文化の鑑賞、発信、創造拠点として地域に愛され人形劇や児童劇など、様々な事業を行っている。令和3年度は、こぐま座が45周年を迎える節目の年でもあったため、新型コロナウイルス感染症を乗り越え、子どもたちが文化芸術にふれる機会を継続的に確保できるよう、両劇場、こぐま座併設の中島児童会館、そして劇団、アーティスト等と協働しながら持続可能な劇場づくりを行ってきた。チェコ在住の人形劇師である沢則行氏を芸術監督に迎え実施した「サイトスペシフィック・パフォーマンス」においては、事業実施直前に緊急事態宣言が発出され、事業中止となったが、トレーラー動画を撮影し無料配信を行うことができた。やまびこ座・こぐま座の人材養成事業に参加する団体や、専門アーティスト・関係機関も多く参加し、地域に根付いた劇場として、長年にわたり行ってきた事業から生まれた人とのつながりをとおして創りあげることができた。※参考 URL (<https://www.youtube.com/watch?v=0drQgUUs3rQ>)

「第50回札幌人形劇祭」においては、感染対策を徹底しながら事業を実施することは難しい場面もあったが、当該事業をとおして今後の事業運営や施設運営にまた新たなノウハウが蓄積されていくように感じた。

今回は、ホールの座席数を少なくしていたため、参加団体は研修室や図書コーナーに置いた大型モニターをとおして観劇する形になった。こういった観劇の方法も、コロナ禍において一気に浸透してきたところがあり、多くの方に場所を問わず観劇の機会を与えることができるということにおいては、今後も取り入れていきたい手法ではある。



※こどもの部 最優秀賞
人形劇団ポンチヨ
「イオマンテ」



※一般の部 最優秀賞
人形劇団ぱべっとゲース
「したきり雀」



※一般の部 最優秀賞
人形劇団バーコード
「夜空の星は」

子どものための専門劇場という特性から、人形劇や伝統芸能のワークショップ依頼や地域団体からの作品創造の協力依頼、人形劇制作依頼等、外部からのニーズは多岐に渡った。学校等の教育現場においては、コロナ禍により校外学習や外部との接触が極端に減ってしまったことによる子どもたちの体験機会の減少を懸念しつつも、どのように体験機会を作り出すかを苦慮していたが、学校現場と我々が連携をすることで、子どもたちに豊かな体験機会を提供することができた。人形劇等の体験を通じたグループ活動により、協力して取り組むことによる達成感や連帯感などを深めることができた。これをきっかけに、さらに興味関心を拡げる子どもたちが現れ、次世代の表現活動の担い手が誕生することを期待する。こういった普及啓発事業をとおして、地域にある身近で親しみの持てる劇場施設としての存在をPRすることにもつながり、表現活動をとおして育まれる子どもたちの豊かな情操、創造性など芸能の力を見直すきっかけや、地域における劇場施設の役割を感じてもらえる事業となり、大きな成果につながった。助成を受けたことで、専門の講師を派遣することができ、事業の充実や協働した教職員や劇場スタッフの資質向上につながったこと、また、地域で活動を行う劇団、アーティストの活動支援や指導者の育成、発掘にもつながる大変良い効果が得られた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

「座・競演」においては、やまびこ座の人材養成事業の中から輩出し、現在大阪の文楽座でプロとして活躍をしている竹本碩太夫の凱旋公演ということで劇場が企画を行った。公演と併せて、子どもたちを対象とした体験型のワークショップを実施。やまびこ座から、このようなプロのアーティストを輩出したということは、これまで我々が行ってきた育成事業の大きな成果ともいえ、プロとして活躍する若者の姿に、今回参加した子どもたちが刺激を受け、また次の世代の担い手となってくれることを期待する。このような豊かな体験活動が、子どもたちの興味の拡がりや、新たな可能性の発見にもつながっていくと考える。

20211008 夕刊（カルチャー）



人形を用いない素浄瑠璃で語りを披露した竹本碩太夫

腹から響く語りで観客魅了

札幌市こどもの劇場やまびこ座（東区）で3日、日本の伝統芸能公演「座・競演」が開かれ、やまびこ座で学んだ文楽太夫の竹本碩太夫（札幌出身）も参加、腹から響く独特の語りで観客約100人を魅了した。

1部は人形芝居の「八王子車人形西川古柳座」（東京）と、地元「さっぽろ人形浄瑠璃夢居あしり座」が共演した。2部は上方伝統文化芸能ユニット「霜乃会」による「奉芸疫禍転福為」。疫病のまん延する時代に、これを鎮めようとするさまさまな伝統芸能を順番に神に奉納する演目で、桂紋四郎（落語）を案内役に林本大（能）、上野雄介（能）、松井宗豊（茶道）、鶴澤燕一郎（文楽）と碩太夫が磨いた技芸を披露した。

公演後は西川古柳座五代目家元の西川古柳と碩太夫、やまびこ座の矢吹英孝館長が鼎談。西川は保育園や小学校で公演し後進育成への種をまいているといい、「進学や就職で離れた子供たちが帰ってこられる場所があることはとても大事」とやまびこ座を評価。碩太夫は「見る側の後継者も不足している」と話し、子供向け体験教室などで関心を深めてもらうことを期待していた。（岡高史）

札幌・やまびこ座で伝統芸能公演 文楽太夫・竹本碩太夫も参加

2021年10月8日 北海道新聞（夕刊）掲載

©北海道新聞社

観客や、劇場の利用者（劇団）や育成事業等参加者からアンケートを回収しているが、全体的に総合満足度や職員の接遇に関して、高い評価をいただき、施設運営にあたり設定している目標を達成することができた。観客アンケートにおいては、「職員の対応・説明について」「劇場の設備について」「観劇の環境について」とそれぞれ5段階評価で記述していただいているが、やまびこ座・こぐま座併せて平均4.45とおおむね良好な評価をいただくことができ、親切に対応してくれたという意見を多くいただいた。劇場における新型コロナウイルスの感染症対策により、安心して利用できたという声も多くいただくことができ、引き続き劇団と共に対策を講じていきたい。コロナ禍によりホールの換気を積極的に行うことにより、寒かった等の室内温度に関するご意見もあった。反面、換気状況がわかり安心して利用できたというご意見もあるため、引き続き観客が心地よく観劇してもらえることを考えながら工夫して対応したい。

毎週末の公演の他、「野外人形劇」や「国際人形劇フェスティバル」等のような特別公演を実施し、人材養成や普及啓発事業を継続的に行うことで、さまざまな文化に触れられる地域の劇場として、今後も地域の実演芸術の振興・文化芸術の発展に寄与していきたい。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

やまびこ座、こぐま座ともに、「公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会」が指定管理者として管理運営を行っている。当財団は、青少年の健全育成や青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援等を人とのつながりをとおして行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与することを基本理念として創設された財団である。両劇場は「夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり」として、劇場という空間が特別なものではなく、地域に開かれた親しみある場として、子どもから大人まで多くの市民が集い合い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを支援し、人や地域の活性化につなげることを目標に地域活動等事業を運営してきた。

人材面においては、舞台技術者については専門職として異動の対象とはならないが、それ以外の職員は財団内での人事異動はあるため、専門的な指導ができる人材や子ども文化をマネジメントすることのできる人材を常に確保できるような育成計画が重要な課題であり、舞台技術の研修、人形劇等の指導のための技術習得研修、育成ノウハウを養うための研修等、財団の人材育成計画に沿って実行している。「人形劇ゼミナール」として、財団内の職員が参加できる育成事業を実施することで、他課の職員の育成にも取り組んでおり、劇場の事業を担うことのできる人材を広く育成している。ボランティア登録は、やまびこ座、こぐま座、それぞれにおいて35名程度の登録があり、読み語りのボランティアなどの事業での人材の他に、ロビー受付の市民対応や物販対応、指人形製作等の人材活用を積極的に行い、職員とともに劇場運営の一端を担っている。

項目	2019年度	2020年度	2021年度	備考
指定管理費	69,616	70,520	73,590	
利用料金収益	5,118	3,823	4,386	
その他収益	44,510	8,460	22,553	入場料、指導料、助成金収入等
収益計(A)	119,244	82,803	100,529	
人件費	48,089	31,989	36,596	
その他費用	70,822	43,405	65,485	
法人事業費	3,049	2,032	2,408	
費用計(B)	121,960	77,426	104,489	
増減額(A)-(B)	▲2,716	5,377	▲3,960	

財務面においては、指定管理費の5割程度が人件費となっており、他利用料金等を合わせ施設の維持管理費用となる。その中から、公的助成金の獲得やサポーター制度（企業、個人からの寄付）、上演収入や指導料収入といった形での予算を捻出することとなる。コロナ禍において劇場の入場者数を制限していることから、入場料収入が落ち込んできたが、オンライン事業等を収益化するまでは至っておらず、今後の課題である。